英国パブリックスクールにおける柔道教育
―イートン校を中心に―

平沢信康*

はじめに

日本の柔術ないし柔道は，19世紀末以来，海外ことに欧米社会に紹介され，一部の知識人や国家元首を初めとする政治家，さらには軍・警察関係者の目を引いた。講道館の門下生は，世界を旅して柔道の教えを広めるよう奨励されたが，日露戦争（1904～1905）の結果，日本の軍事的・国際政治的存在感が急浮上するなか，英仏米などで柔道への注目が高まり，当初は特に上流階級の間で受容された。

イギリスでは早くから柔術（まもなく柔道）が紹介され，高等教育界へ導入された。日露戦争後の1906年に英国人E.C.D.ローリングスが欧州最初の「柔術クラブ」をケンブリッジ大学において創設し，1926年にはオックスフォード大学に「柔道クラブ」が設立された。この間，茨城県出身の柔道家であった小泉軍治が1918年，ロンドン市内に「ロンドン武道会」を創設し，英国内の柔道普及に尽力し尊敬を集めた。

第二次世界大戦後，柔道への関心は中等教育機関に及び，パブリックスクールのなかでも柔道を教える学校が現れた。パブリックスクールが徳育上スポーツを重視してきたことは周知の事実であるが，今日では，数ある伝統校の中でも柔道を教えている。

厳密な定義は英国の専門研究者にも困難とされるが，とりあえずパブリックスクールとは，英国のイングランドおよびウェールズにおける私立の中等教育機関で，中世以来イギリスのジェントルマン階層の子弟を養成して，深くイギリスの社会の中に浸透している学校である，とする。大部分は寄宿制であり，一流大学進学を前提とする裕福な階層の子どもたちが厳格な規律の下に集団生活を送っている。自由と規律，公正なスポーツマンシップと相互尊重など，イギリスの教養ある人士の基本となる徳性を涵養することを目的とする学校として知られている。

我が国へパブリックスクールを紹介した著作としては，慶應義塾大学文学部教授であった池田潔（1903～1990）がパブリックスクール在学体験の記憶をもとに執筆した『自由と規律』が，すでに古典たる地位を確立している。池田は，第一次世界大戦直後に「近世パブリックスクール」の中で最も新しいリース・スクール（1875年創立）に入学し，卒業後ケンブリッジ大学へ進学し，更にドイツのハイデルベルク大学に学んだ。第二次世界大戦後まもなく刊行された同書は，教養人に知られ，識者の注意を惹き，教育界に珍重され，往時には学生に広く読まれた。文学作品としても雅趣に富む同書により，パブリックスクールの学校生活とエートスについての理解が我が国に広がった。

その後1990年代に入ると，竹内洋や伊村元道あるいは秋島百合子の啓蒙書により，一層詳しい多角的情報が入手できるようになった。

パブリックスクールの教育についての研究も1980年代以降，国内外で進んでいる。英国の教育社会学者 Walford, Geoffrey（1949～）が参与観察を加味して執筆した『パブリック・スクールの社会学』は従来の水準を抜くものであった。我が国

*鹿屋体育大学伝統武道・スポーツ文化系

にあっても，19世紀以来のパブリックスクールにおける集団競技スポーツの教育について，村岡健次や阿部生雄らによって歴史研究が蓄積されている。さらに東京学芸大学の鈴木秀人は参与観察を交えて調査し，正課体育も含めた同校におけるスポーツ教育の実態を詳述している。

しかしながら，パブリックスクールにおける武道教育に注目した言及は，ほぼ皆無といってよいほど，先行研究には欠落している。

本稿は，英国パブリックスクールにおける柔道受容の歴史と実態の一端を，Web ページの記載情報に加え，実地調査で入手した資料とヒヤリングを踏まえ報告するものである。

本研究は，学長裁量経費（重点教育プロジェクト事業経費）を含む平成21年度の教育改革事業「修養的教養に主眼を置いた学士課程教育の再構築―武道礼法指導を中心に―」の運営費交付金の一部を活用して英国へ視察調査に行き，その成果としてまとめたものである。

小説に現れたパブリックスクールにおける柔道

本論に入る前に，イギリス人が書いた小説の中に，パブリックスクール内での柔道について描写・記述した作品が，管見の限り，２点あるので紹介したい。

１．ジョン・フィネモア著『初めての学期：スラプトンスクールの物語』

少年向け絵入り長編小説に *His First Term: A Story of Slapton School*, by John Finnemore という作品がある。そのオリジナル版は1909年に London & Edinburgh: W. & R.Chambers, Limited から出版され，1949年に再版された。

この小説は，架空の男子寄宿学校に新たに生徒として入学したイトウ・ナガオという日本人の少年を中心とした物語である。彼は，東京で英語を家庭教師に習っていたので英語は堪能であったが，体格には恵まれていなかった。友達はつくりえたものの，学校のいじめっ子は，すぐに言葉の上での，さらには身体的なハンディに付け込もうとした。寮での最初の夜にトラブルが生じ，いじめっ子がイトウに襲いかかった。二人の喧嘩の様子は冗長なまでに詳しく描かれている。イトウは，いじめっ子を二度にわたり肩車のような格好で部屋を横切るように投げ，周囲を驚かせた。舎監が詳しく調べに来たので，イトウは次のように説明した。「私にはそれほど強い力はありません。私の筋肉は丈夫ですが，それ以上のものではありません。我々の格闘（術）では，自分の力は用いません。相手の力を使うのです。いじめっ子はとても強いので，彼が私めがけて突き進んできた時，私はただ退いて，彼が突き進み続けるのを助勢したのです。ただし，それは私がしたいと思う方法で，投げたい方向に続けました。」

この技には他の少年たち皆が感心した。イトウはその後，学校で最も人気のある生徒となり，彼はラグビーにおいても同様に上達した。

『初めての学期』は，パブリックスクールを舞台とした日本から留学・入学した少年を中心とした長編物語の一つであるが，西欧における柔道受容史的にも，教育文化史的に興味深い作品である。

フィネモアは現在ではすっかり忘れ去られた作家であるが，少年向けの本やノンフィクションの教育作品を多数書いている。教育的著作の中には『諸国瞥見』シリーズの『日本』（1907年）があり，カラーで日本の生活や習慣が描写されている。

２．イアン・フレミング著『００７は二度死ぬ』

イアン・フレミング Ian Lancaster Fleming（1908～1964）が執筆したフィクション小説『007は二度死ぬ』の架空のヒーローであるジェームズ・ボンドは，満足すべき成績でイートン校に入学したものの，わずか２学期で退学勧告を受け，父の母校フェッテス Fettes College（エジンバラに1870年創立）に転学したと作品の中で描かれている。同校は，カルヴァン主義的な雰囲気のある，学問的にも体育の面でも非常に厳格な校風を有し

ていた。

17歳で同校を卒業する前に，1930年代末期，フェッテス校でボンドは「イギリスのパブリックスクールとしては最初の本格的な柔道部を創設している」（『007は二度死ぬ』21章「死亡記事」；早川書房〔井上一夫訳〕，昭和53年，258頁）。

ただし原文では，“founded the first serious judo class at a British public school”（*You Only Live Twice*, Ch. 21, PENGUIN BOOKS 版では257頁；下線は筆者）となっているので，柔道「部」創設とまでは言いえないであろう。ともあれ，フレミングの記述の背景に，なにか英国柔道史上の〈事実〉があるのかもしれない。判然としないが，当時フェッテスカレッジに通った英国青年の間に（ボンドのモデルとなったような）熱心な柔道愛好家がいた可能性は否定できまい。

現在のパブリックスクールにおける武道教育の普及実態

今日では，英国の少なからぬパブリックスクールで柔道が教えられている。代表的なイートン校 Eton College（1441年創立）やハロースクール Harrow School（1572年創立）においてさえ柔道が教えられていることは，注目に値する。さらに現代では，柔道にかぎらず，日本の（さらには日本以外の）他の幾つかの武道/武術が教えられるに至っている。

英国には「パブリックスクール校長協議会　男子独立学校柔道トーナメント」という大会がある。最近では2009年３月７日（土曜日）に，ロンドン郊外の整備された民間施設ハイウィカム柔道センターにて開催された。

パブリックスクール校長協議会のホームページ（http://www.hmc.org.uk/index.shtml）には250を超える英国及び国際的な独立学校が列挙されている。この組織に属している有名校のウェブサイトを見ると，一握りの学校ではあるが，柔道の教育を行っており，その殆どがロンドン市内または郊外もしくは西イングランドにあることが分かる。

そのうち幾校かでは，柔道ではなく，他の武道が教えられている。例えば，合気道（セントポールスクール，ペルススクール），空手（ストウスクール，ランシングカレッジ，ロレット，ウェストミンスタースクール），跆拳道（ラグビースクール，ミルヒルスクール）である。

ウィンチェスターカレッジ（1382年設立）のウェブサイトにも柔道の説明を見出すことができる。またウェイクフィールドのクイーンエリザベス・グラマースクールでも柔道を教えている。オックスフォードのセントエドワーズスクール（1863年創立）には，前英国オリンピックコーチであった三段の柔道家によって指導されている強い柔道クラブがある。また，シャーボーン（1550年創立）にも三段の指導者がおり，バース大学との関係が窺える。

さらに，クライストホスピタル（1552年創立）やトンブリッジスクール（1553年創立），マーチャントテイラースクール（1561年創立），マンチェスター・グラマースクール（1515年創立）にも，選択として柔道が挙げられている。

エリザベス１世時代に創設されチャーチルはじめ７人の首相や詩人バイロンあるいはインドのネルー元首相らを輩出してきたハロースクールも，柔道を教えているが，イートン校の様な固有の柔道場をもっていないため，スカッシュの室内コー

ハロー校のスカッシュコート

トにマットを敷いて教えている。ただし，同校のラグビー場，サッカー場，陸上競技場は抜群である（先行諸研究が掲出している表によれば，同校の敷地面積は19世紀に急拡張された）。

ながらく古典語教育を重視してきた古い歴史を有するパブリックスクールが，19世紀以降，団体運動競技に重要な役割を与えてきた自らの慣習に固執することなく，柔道のような外国の，しかも極東の身体運動文化を採用し受け入れている点は，不思議でさえある。ことにイートンやハローのような英国の超名門校がカリキュラムに柔道教育を含めていることは，その伝統と格式からして，なおさらである。

なお，セントピーターズスクール，ヨーク（おそらくイングランドで最も古い学校：設立は627年），セブンオークススクール（1432年創立），セッドバーグスクール（1525年創立），シュルーズベリースクール（1552年創立），ストーニーハースト（1593年創立），ダリッジカレッジ（1619年創立）は，ウェブサイトで柔道について言及していない。

英国における柔道は，第二次世界大戦後に大きな発展を成し遂げ，今日では多くの人々が柔道の稽古をしているが，学校においては資質と資格のある指導者が欠如しているということは疑う余地がないようである。また学校を運営する立場からすると，柔道は危険に見えるのかもしれない。

イートン校の柔道教育

１．イートン校の歴史について

イートン校は国王ヘンリー６世によって，ケンブリッジ大学のキングスカレッジ創立（1440年）とともに，1441年に創設された。キングスカレッジへの進学を目的とした，いわば予備校として創設された中等教育機関である。イングランド南部バークシャー県東部ウィンザー・メードンヘッド地区の町にある。ロンドンの西郊約40㎞のテムズ河北岸に位置し，河の反対側には，現在も使用されている王室の居城としては世界最大規模のウィンザー城がある。

イートン校は，プリーフェクト制を採用せずチュートリアル制を採っている点で，他のパブリックスクールとは異なっている。オックスフォード，ケンブリッジ両大学や陸海軍士官学校への進学者が多く，現キャメロン首相ほか18人の首相を生むなど各界指導者を多数輩出している。また，貴族や王室（例えばネパール国王など）の子弟が多いのが特徴であり，エリザベスⅡ世の孫ウィリアム王子とハリー王子も同校を卒業している。

同校中庭のヘンリー６世の銅像

建学の理念として「ノブレス・オブリージュ」，すなわち高貴なる者としての責務を全うする精神を掲げている。

現在，約1300人の生徒が在籍し，25棟ほどのハウス House（学寮）に分かれて居住しつつ学業に励んでいる。スポーツ，とくにチームスポーツが盛んで，ハロースクールとのクリケット対校戦は，今なお人気の的となっている。

ちなみに，ケンブリッジ大学柔術クラブの初代会長エヴリン・チャールズ・ドナルドソン・ローリンズは，イートン校出身者であった。国会議員の子どもとしてロンドンに生まれたイアン・フレミングも少年時代イートン校に通い，卒業後は陸軍士官学校へ進学した。

２．イートン校の柔道場について

今日，イートン校には柔道専用の道場が体育施

設の２階にある。現在の体育館が建設された1960年代に出来たようである。40畳敷きほどの，かなり広い柔道場で，2009年９月９日に訪れた際，案内され見学することができた。

この道場は，柔術，空手，合気道，太極拳，Kung Fu や Capoeira といった武道/武術のほか，ヨガのクラスでも使用されている。

GYMNASIUM AND SPORTS COMPLEX 入口

柔道場の内部

３．イートン校の柔道教育史

1960年代から教えられるようになった柔道は，同校で公認/指導されている身体運動の１つである。

同校のホームページにある CURRICULUM の項目から GAMES をクリックすると，以下の種目が列挙されている。 GAMES, GAMES Programme, Football, Rugby, Wall Game, Field Game, Athletics, Rowing, Cricket, Tennis, Fives, Rackets, Squash, Golf, Hockey, Swimming, Gymnasium, Shooting, Badminton, Martial Arts, Basketball, Other Games

このなかで Martial Arts をクリックすると，まず同校における武道/武術導入史の説明がある。同校で Judo が教え始められたのは1960年代半ばであった。続いて合気道が1970年代初頭に，空手が80年代半ばに，90年代半ばには太極拳が，21世紀に入って CapoeiraとKung Fu および柔術が，それぞれ導入された。

同校生徒には，これら広範な武道/武術を，その哲学と共に実践的なテクニックを併せて紹介している。その目的は，肉体の鍛錬と規律であるとともに，スポーツとして，また護身のためでもある。その際，テクニックのみならず，勇気・敬意・清廉・正直・謙虚といった諸徳を，学内外の指導者が促し育んでいる。

昇級/昇段試験を受けることができ，たとえば空手では，1985年以降，20人の少年が初段を取得し，黒帯を締めた。同校生徒は，空手や柔道等の地区大会・全国大会に参加し，ジュニアレベルとシニアレベルの双方において，金・銀・銅のメダルを獲得してきた。

このほか，過去５年間，スペシャリストによる武術教育のオプションが提供されている。これは，武術の指導的な熟練者による１週間のダブルスクール・ワークショップを含むもので，上記種目のほか，合気術，剣道，忍術，Chin Na, Jeet Kune Do, Wushu ならびに一般的な護身術を加えて催されている。

さらに，この頁の後段には，以下の種目の説明が列挙されている。Aikido and Aikijutsu, Capoeira, Judo, Jujutsu, Karate, Kung Fu, Tai Chi

イートン校を訪問した際，学寮長 House Master の一人 Paul Smith 氏を紹介され，面会することができた。

種々，話を伺い，資料を頂戴したが，その一つに，同校での柔道指導者の系譜資料（一部手書き）がある。それによれば，1960年代は未詳 not known とある。

House Master 邸

Paul Smith 氏（右から２番目）
外部コーチ Nick Fletcher 氏（左から２番目）

Eton College Judo Coaches と題する，この書類に依れば，現在のイートン校関係者は1960年代の同校柔道教育史について把握していない。しかし，筆者は独自調査により，初期の指導者に巡り会うことができた。

イートン校訪問に先立ち，筆者は，オックスフォード Oxford 訪問時，1960年代にイートン校へ化学の教師として着任し，同校で柔道を教え始めた人物トニー・ビュリー氏に面会することができた。氏は，オックスフォード大学の卒業生で，同大学の柔道クラブの出身であった（今日も Chairman として熱心にコミットしている）。

オックスフォード大学を卒業（化学専攻）したビュリー氏は，1964年夏，イートン校に教師として着任している。オックスフォード大学柔道クラブに所属（1958年入部）し主将を務めていた経験を活かして同校へ柔道を導入し，生徒に教えたという。1966年の初めまで在職し，近くの柔道クラブからコーチを招いて一緒に教えたが，当時，畳はなかったとのことである。

以下の英文は，再確認を目的とした筆者の電子メールによる問い合わせに対する Tony Buley 氏からの回答である（2010年６月23日，24日受信）。

It is true that while I was at Eton, I encouraged a number of pupils to start practising judo and gave them some instruction having previously been the Captain of the Oxford University team.

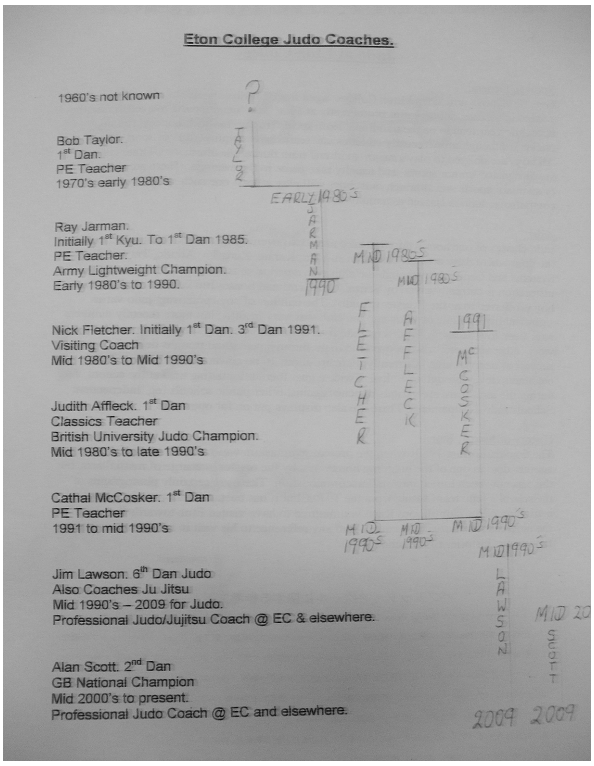
At this time I was not a very experienced teacher so I invited the coach of the nearby judo club to give the boys some instruction and we ran these sessions together. Also we did had no proper tatami.

I did not stay a teacher at Eton very long (I moved back into a scientific career) and, when I left, the local coach continued to teach the boys and I think the numbers began to increase and the school bought some proper tatami. It is difficult to say at which point this became formalised as a school club but it is certainly true that I was responsible for Judo being introduced into Eton at that time and I believe it has continued as a recognised sport at the school ever since, though never as a major sport.

The answer to your question is that I went to teach at Eton in the summer of 1964 and left in the early part of 1966 – I forget the exact dates.

Tony Buley 氏（オックスフォード市内のホテルで）
現在 MAYO LEARNING INTERNATIONAL 社の重役を務める

筆者の訪問を前にして，事前に送信した問い合わせに対して学内調査してくれた Paul Smith 氏がまとめてくれた同校柔道指導者の系譜リストを，以下に写真で示そう。



イートン校の柔道コーチたち

この資料によれば，1970年代以降の担当者は，以下の通りである。

【1970年代から1980年代初めまで】
ボブ・テイラー Bob Talor（初段）＝体育教師

【1980年代初めから1990年代まで】
レイ・ジャーマン Ray Jarman（当初１級であったが1985年に初段取得）＝体育教師，陸軍軽量級チャンピオン

【1980年代半ばから1990年代半ばまで】
ニック・フレッチャーNick Fletcher（当初は初段であったが1991年に三段取得）＝客員コーチ

【1980年代半ばから1990年代後半まで】
ジュディス・アフレックJudith Affleck（初段）＝女性古典教師

【1991年から1990年代半ばまで】
キャサル・マッコスカー Cathal McCosker（初段）＝体育教師

【1990年代半ばから2009年まで】
ジム・ローソン Jim Lawson（六段）＝プロの柔道コーチ，柔術も担当

【2000年代半ばから現在まで】
アラン・スコット Alan Scott（二段）＝プロの柔道コーチ，全英国チャンピオン

上記資料に列挙された学内の教師や外部コーチのほか，マイク・タウン氏（1973年就任）も同校の武道教育にコミットした教師の一人である。氏は英国内で高い評価を受ける一流の気象学者であると同時にオルガン演奏も得意な人物で，合気道，柔道，空手，柔術に通じる黒帯の持ち主でもあった。1984年に学寮の一つ Hopgarden（寮名）に移った際，最年少のハウスマスターであった氏は，ハウスの私用部分に道場を設置した。

Vale MAT

TFXE

As you sit reading this article, the chances are that Eton's boys and Masters will have had at least 48 hours' advance notice of the weather that you're currently enjoying – courtesy of Mike Town, Eton's very own weather expert. If it has been said that Eton is a place of superlatives – then this is certainly an apt description of Mike. On his appointment in 1973 there could be few other schools that had on their staff a multiple black belt organ scholar who simultaneously enjoyed a reputation as one of the leading meteorologists in the country. Over the last 36 years Mike has shown consistent generosity of spirit in sharing these skills and enthusiasms with boys and staff alike, and Eton has been enriched by his contribution. His particular zest for language will be the subject of fond reminiscence for **The Old Biscuit Factory** (q.v.), as Old Etonians look back to their happy days as **miniboppers**, when life revolved around the occasional need to submit a **burnt offering**, prior to a spot of lunch at the **Eton Trough** and a bout of **projectile warfare** in the afternoon. In fine houses up and down the country there's a generation of young men for whom **cow juice** and **granulated death** are the perfect accompaniment to a nice cup of **crushed beans**. But while it may have taken a little time to adjust to Mike's linguistic gifts, the forceful impact of his teaching was always immediate. His unquestioned scholarship notwithstanding, he was a tireless advocate for the cause of Geography in the School, and took a leading role in the establishment of the physical geography field courses that C-Blockers still enjoy today. Mike's teaching of the subject always emphasised its relevance

退職したタウン先生を偲ぶ学校誌の記事
THE CHRONICLE 2009年６月号

以下は，この雑誌記事の抄訳である。

イートンの気象専門家であるマイク・タウンのおかげで，イートンの生徒やハウスマスターらは，少なくとも48時間前に現在の天気を知る機会を得ることができた。もしイートンが最上級の場所だと言われれば，それはマイクを描くにふさわしい。黒帯を取得し，オルガン演奏のできる学者で，同時に国内で高い評価を受ける一流の気象学者である教員を有した学校など，彼が着任した1973年にはほとんど無かったであろう。36年間にわたり，マイクは一貫して寛大の精神を示し，これらの技能や情熱を生徒や職員らと分かち合った。彼の貢献のお陰でイートンは豊かになった。（中略）初期のジャッキー・チェンの映画を媒介とした熱帯地理学の分析は，イートンの伝説の一つである。マイクの武術への精通もまた伝説的である。特に，1970年代に近隣の悪評高いチンピラたちがマイクをいたずらの対象に選んだことは，非常に愚かな事であった。嵐のように繰り出される合気道，柔道，空手，柔術そしてカンブリアレスリングの技によって，即座に彼らは自らの過ちを悟らされた。

Paul Smith 氏がまとめてくださったＡ４用紙１枚の資料“Judo at Eton College”に依拠して，同校における柔道教育の現状を以下に説明する。

現在，13歳から18歳までの1300人以上の生徒が在籍している。

イートン校では，学業成績はもちろん，スポーツが重要な位置を占めてきた。同校では，スポーツ活動はメジャーとマイナーとの２種類に分けられている。すなわち，伝統的なチームスポーツは「メジャースポーツ major sports」と，それ以外は「マイナースポーツ minor sports」と称されている。前者には，ラグビー，フットボール，ホッケー，ボート，クリケットが含まれてきたが，最近は，これらに陸上競技とテニスが加わった。

全生徒は，major sports のなかの１種目を選び，午後にプレーないしトレーニングすることが義務付けられている。マイナースポーツの数は約20あり，生徒はその少なくとも１つを選択して通常，夕方に練習するのだが，こちらは強制ではない。柔道は，マイナースポーツ minor sports に分類されている。

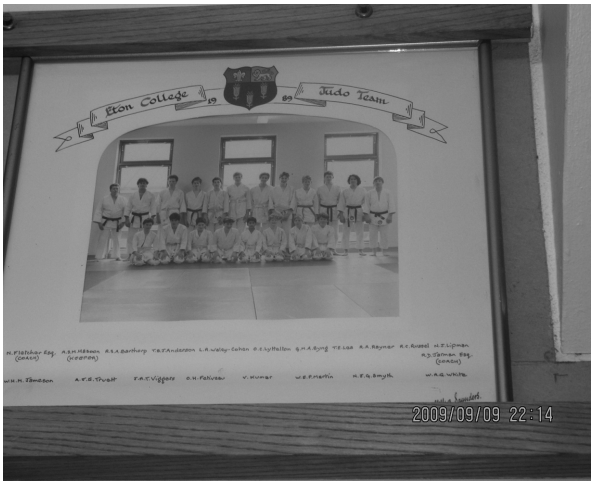
イートン校では，柔道の授業が火曜と木曜の週２回，夕方１時間，設定されている。１クラス，12人程度の生徒が参加している。

同校では，入門者から１級レベルの生徒を，コーチや上級生が指導しており，校内で年２回昇級試験がある。

学期の間に，独立学校柔道トーナメントなど，他校との対校戦があるほか，オープンキャンパスのための公開試合や演武がある。

柔道クラブの方は，時代により部員数に変動がある。２年前にはかなり部員数がいたが，最近は人数が減少しつつあり，10人ほどの生徒が定期的に稽古しているのみである。背景には，学業のプレッシャーや競合する他のスポーツの存在がある。

イートン校では，柔道チームの集合記念写真が1970年代から残っているが，いつ柔道クラブが実際に創設されたのかは定かでない。



イートン校の柔道チームの集合記念写真

Paul Smith 学寮長への質問の中で，同校のカリキュラムの中へ柔道が導入された背景に19世紀以来のアスレティシズム Athleticism の伝統があるのではないか，との問いを発した。規律やスポーツマンシップを身につけるための訓練として，パブリックスクールでは運動競技が重視されてきた

伝統がある。スポーツを通じて倫理的徳性を涵養するという教育思想と修養上の狙いがあることについて，氏は（私見としてではあるが），首肯された。柔道教育もまた，ジェントルマン養成という道徳教育の延長上にあることを確認できた。

なお，19世紀末に嘉納治五郎が同校を訪問したとの推測ないし伝聞が我が国柔道関係者の間にあるようで，日本武道学会理事長の村田直樹講道館図書資料部長から調査を期待された。この件ではバース大学の柔道監督マイケル・カラン国際柔道研究者会長からも，前年に同校へ問い合わせがあったそうである。

スミス寮長の夫人は同校図書館の司書をしているため，関係資料を探してくれたそうだが，残念ながら，学校誌など同校史料には嘉納治五郎来訪の記録は見当たらなかったとの回答であった。

４．イートン校と日本の高等学校との交流

参考までに，イートン校と日本の愛知県立刈谷高校との国際交流について最後に触れておきたい。同校の特色はＨＰに幾つか列挙されているが，４番目に「英国イートン校との活発な交流」を掲げている。

刈谷高校の前身は，1919（大正８）年に愛知県に創立された旧制中学の一つである。同校の初代校長は，東京大学で西洋史を専攻した羽生隆であった。羽生は同校創設の際，イートン校をそのモデルとし，当時この愛知県で盛んであった野球を禁止して生徒にサッカーを奨励したと言う。「イートンに学べ，東海のイートンとなれ」という初代校長の創立の心を交流という形に具体化したのは，1988（昭和63）年の刈谷高校創立70周年記念行事であった。イートン校のサッカー部と柔道部を同年８月に刈谷高校へ招待したことから，創立当時の夢であったイートンと刈谷の交流が始まった。1990年には，イートン校創立550周年記念行事として，刈谷高校のサッカー部と柔道部が８月イートン校へ招待された。

創立70周年を記念して始めた英国のイートン校との相互訪問交流は，その後２年に一度，生徒15名前後が渡英訪問して続いている由である。

参考文献

1　阿部生雄（2009）『近代スポーツマンシップの誕生と成長』筑波大学出版会
2　秋島百合子（1995）『パブリック・スクールからイギリスが見える』朝日新聞社
3　Fleming, Ian（1964）You only live twice，井上一夫訳（1978）『007は二度死ぬ』早川書房
4　池田潔（1949，改版1963）『自由と規律―イギリスの学校生活―』岩波書店（岩波新書）
5　伊村元道（1993）『英国パブリック・スクール物語』丸善
6　村岡健次（1987）「「アスレティシズム」とジェントルマン― 一九世紀のパブリック・スクールにおける集団スポーツについて―」『ジェントルマン・その周辺とイギリス近代』ミネルヴァ書房
7　鈴木秀人（2002）『変貌する英国パブリック・スクール：スポーツ教育から見た現在』世界思想社
8　竹内洋（1993）『パブリック・スクール：英国式受験とエリート』講談社
9　トレヴァー・レゲット Trevor Pryce Leggett（1983）『紳士道と武士道 GENTLEMANSHIP and BUSHIDO』（サイマル出版会）の第２章（紳士道：ジェントルマンシップの系譜）第７節（ジェントルマンシップの理想）
10　ウォルフォード（1996）『パブリック・スクールの社会学：英国エリート教育の内幕』世界思想社（竹内洋，海部優子訳）

以上のほか，マイケル・カラン Michael Jeremy Callan 国際柔道研究者協会長が2008年６月に英国バース大学 University of Bath の School for Health へ提出した Doctor of Philosophy 取得のための学位論文も参考にした。タイトルは以下の通りである。

ELITE SPORT AND EDUCATION SUPPORT SYSTEMS: A CASE STUDY OF THE TEAM BATH JUDO PROGRAMME AT THE UNIVERSITY OF BATH

※なお，本研究の一部については，2010年７月３日に開催された日本国際理解教育学会第20回研究大会の自由研究発表（第１日の第５分科会）において口頭発表を行った。

謝　辞

本研究に関しては，カナダのトロント大学で教鞭をとられたDavid Waterhouse名誉教授から多くの示唆をいただいた。2009年５月に伝統武道・スポーツ文化系主催の武道研究会のため本学へ招聘し，信頼醸成と意見交換がかない，同年９月にはトロント郊外オークヴィルにある御自宅に招待され，古い小説 *His First Term* を拝見することができたほか，パブリックスクールの柔道関係情報について種々，教示を得た。

またカラン氏には，渡英前に英国柔道教育関係者への紹介の労をおとりいただいた。

Windsor Judo Clubの Nick Fletcher氏にはイートン校へ案内いただき，Paul Smith氏には秋の入学式直前の多忙な時間を割いて面会とヒヤリングの機会を与えてくださったばかりか，ランチまで提供して快く応対くださった。

各氏の御好意と寛仁に対して，ここに謝意を表する次第である。